

## 第3章 将来の環境像

# 1 目標とする環境像

前計画の基本方針を継承し、以下を第2次犬山市環境基本計画において目標とする環境像として掲げます。

## 里山の自然と暮らしが調和した 住み続けたいまち 犬山

本市は、国宝犬山城をはじめとする多くの歴史文化遺産に恵まれた地域です。また、滔々と流れる木曽川や、市域の3分の2を占める里山などの自然資源にも恵まれ、国指定の天然記念物であるヒトツバタゴ自生地をはじめとした貴重な動植物もみられます。

このような自然資源や歴史資源の豊かさを基盤として、自然を守る市民の自主的な取り組みやまちなみ創造のための自主的な取り組みが進められてきました。

その成果を継承し、さらに発展させるために、市民の自主的な活動を広げていかなければなりません。

健全で恵み豊かな環境を継承していくためには、経済社会システムに環境配慮が織り込まれ、環境的側面から持続可能であると同時に、経済・社会の側面についても調和のとれた健全で持続的である必要があります。このため、持続可能な社会を実現するため、環境的側面、経済的側面、社会的側面が調和をとりながら統合的に向上させることが必要であり、環境保全を犠牲にした経済・社会の発展も、経済・社会を犠牲にした環境保全もはや成立し得ず、これらをWin-Win（相利共生）の関係で発展させていくことを模索していく必要があります。

東部丘陵をはじめとした里山は、市街地の背景となり、本市の自然環境を特徴づけるシンボルとなっています。里山に降った雨は涵養され地下水になるほか、河川や海域に流れ込むことにより、全ての生命の源となります。こうした自然環境を将来に向けて守り伝えていきます。

市民の暮らしや事業所の経済活動を保ちつつ環境負荷をできるだけ削減し、人々の生活によって自然を失うことがないように、「自然と暮らしが調和した」魅力的な地域づくりに取り組んでいきます。

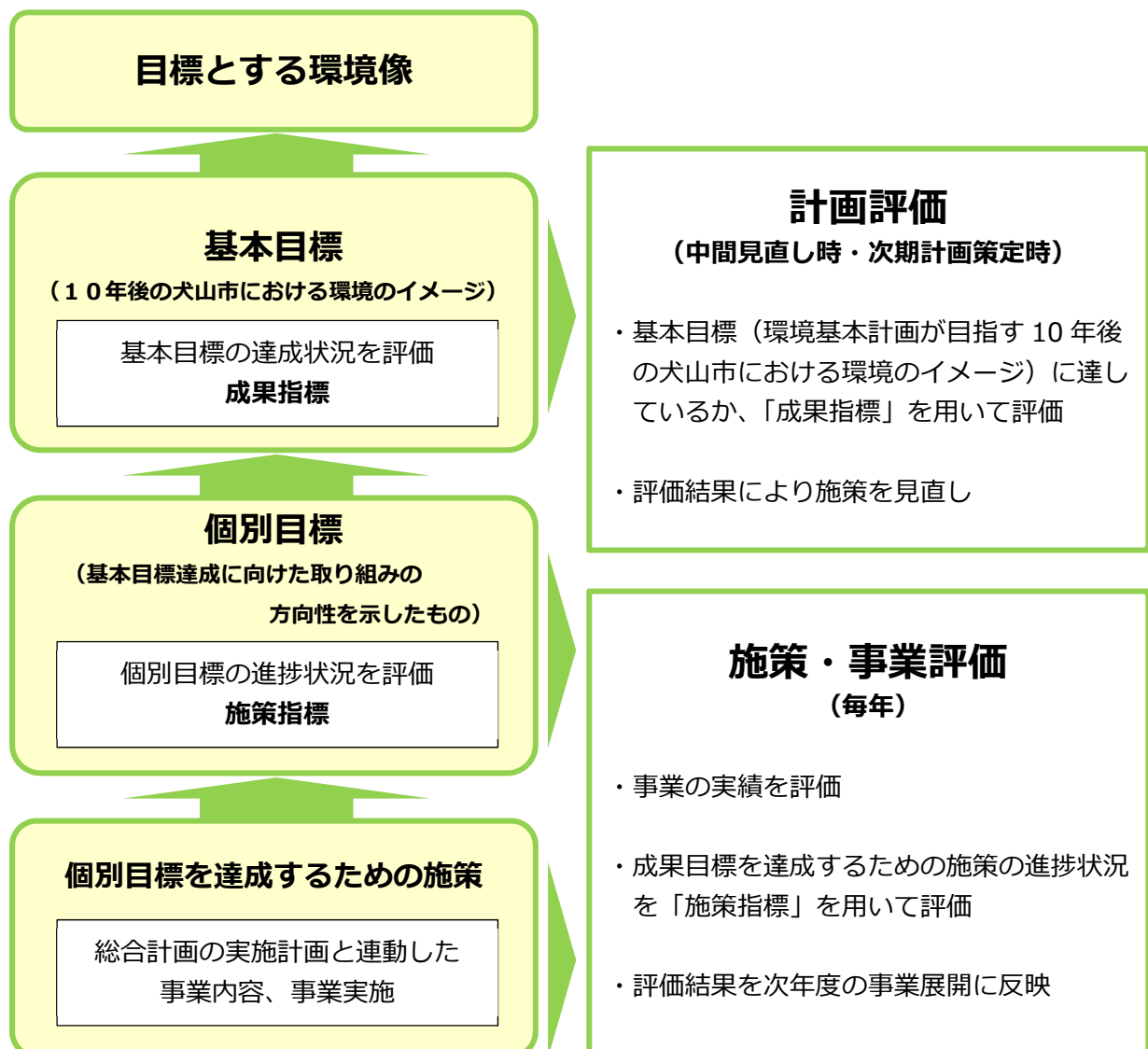
これからの環境保全を市民、事業者、市の協働による事業として進めていき、人々にとって「住み続けたいまち」を共通の合言葉にします。

## 2 目標とする環境像の実現に向けた本計画の枠組み

目標とする環境像の実現に対し、本計画が目指す10年後の犬山市のイメージを5つの分野ごとに描き、これらのイメージを「目標とする環境像」を実現するための「基本目標」と位置づけます。目標とする将来イメージの実現の度合いを測るため、各基本目標には、達成指標となる「成果指標」を設定します。

さらに、基本目標の達成に向け、12の「個別目標」を定め、より具体的な取り組み内容を「施策」として表現しました。施策の進捗度合いを測るため、各施策には「施策指標」を設定します。基本目標、施策がどのようにつながり、寄与しているのかを評価できるように、成果指標及び施策指標は、原則としてアウトカム指標とし、客観的かつ継続的に測定、評価できるようにします。また、定量的指標に加えて定性的な指標を設定することにより、総合的な評価へと繋げていきます。

### 本計画の枠組み



## 目標達成に向けた体系

目標とする環境像	基本目標	関連する SDGs
里山の自然と暮らしが調和した 住み続けたいまち 犬山	<b>1 里山の恵みを守り育てるまち ～自然共生社会の実現～</b>	
	<b>2 限りある資源を 有効に利用するまち ～循環型社会の実現～</b>	
	<b>3 安心して快適に暮らせるまち ～安全・安心社会の実現～</b>	
	<b>4 地球環境に配慮したくらしを 実践するまち ～低炭素社会の実現～</b>  (犬山市地球温暖化対策実行計画 【区域施策編】)	
	<b>5 協働による環境活動の楽しさを 未来に伝えるまち ～環境保全活動の拡大～</b>	

個別目標	施策
(1) 里山の保全	① 里山（洞）の保全 ② 農地、森林・里山林の保全 ③ ため池・河川、水辺の保全・活用
(2) 生物多様性の保全	④ 動植物の生息・生育環境の保全 ⑤ 生物多様性の保全に向けた普及・啓発
(3) 健全な水循環系の構築	⑥ 健全な水循環系の維持・回復に向けた取組の推進 ⑦ 良好な水環境の維持
(4) 3Rの推進	⑧ 食品ロス等ごみの発生抑制に向けた普及・啓発 ⑨ 再資源化の推進と脱プラスチック ⑩ 適正なごみ処理体制の確保
(5) 安全・安心な生活環境の保全	⑪ 公害防止対策の推進 ⑫ 監視、測定の実施 ⑬ まちの美化・不法投棄対策の推進 ⑭ 公園の整備・維持管理、緑化の推進 ⑮ 桜の維持管理と遊歩道の活用
(6) 気候変動適応策の推進	⑯ 自然災害対策の推進 ⑰ 健康被害対策の推進
(7) 省エネルギーの推進	⑱ 家庭の省エネルギーの促進 ⑲ 事業者の省エネルギーの促進 ⑳ 公共施設の省エネルギーの推進
(8) 再生可能エネルギーの利用促進	㉑ 再生可能エネルギーの適切な導入の促進
(9) 低炭素型まちづくりの推進	㉒ 省エネルギーに配慮した建物・設備への転換の促進 ㉓ 環境負荷の少ない移動の促進
(10) 環境に配慮した行動の実践	㉔ 環境にやさしいライフスタイル、ビジネススタイルの実践に向けた普及・啓発
(11) 環境教育・環境学習の推進	㉕ 学校における環境教育の充実 ㉖ 地域における環境学習機会の拡充
(12) 協働による環境活動の推進	㉗ 環境に配慮した活動への支援 ㉘ 協働による環境保全活動の充実と担い手の育成・活用 ㉙ 環境に関する情報共有と協働の場づくり

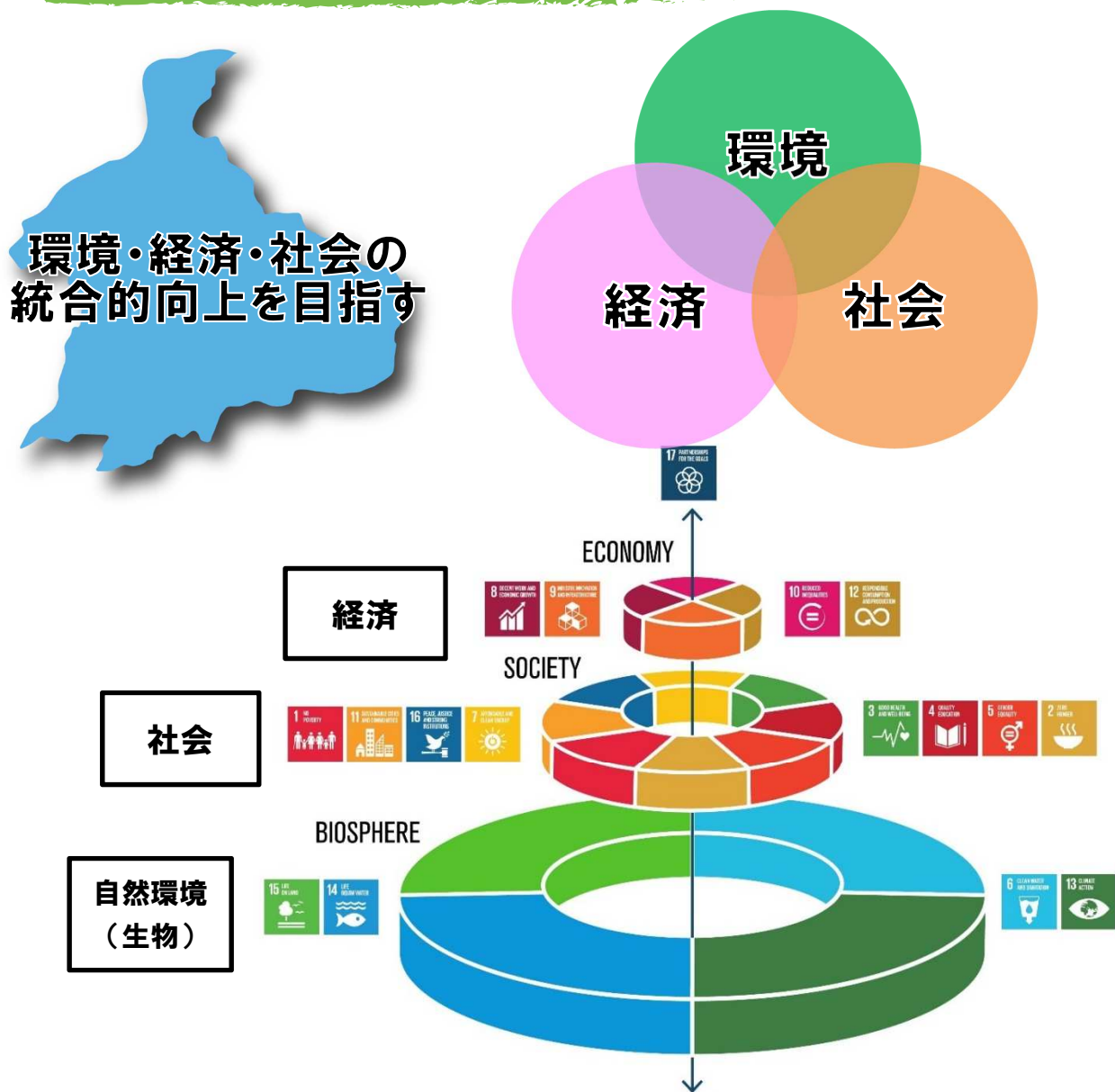
### 3 基本目標

目標とする環境像を達成するために、5つの分野における基本目標とそれが実現した10年後の犬山市のイメージを描きました。

これらの基本目標と将来イメージのもとで、私たちの暮らしは「自然環境（生物）」を土台として、その上に生活環境ともいえる「社会」があり、さらにその上に「経済」があるという「環境」「社会」「経済」が切り離せない関係の基で成り立っているということを認識し、3つの分野の活動が互いにリンクすることで持続可能な社会が実現できると考えます。

市民、事業者、市の協働により、環境・社会・経済の統合的向上を進め、目標とする環境像の実現に向けた取組を進めていきます。

#### 環境・経済・社会の統合的向上のイメージ



出典：ストックホルム・レジリエンス・センター Stockholm

## 基本目標 1

## 里山の恵みを守り育てるまち

## ～自然共生社会の実現～

## 10年後の将来イメージ

里山では、市民、事業者、市など多様な主体が連携しながら、保全と再生に取り組んだ結果、希少な在来の動植物の個体数が増加するなど、多様な動植物が生息する心地よい空間として、市民に親しまれる存在となっています。

また、涵養能力を持つ森林やため池などが、市民、事業者、市との協働で保全、再生され、多様な動植物の生態系が維持されていると同時に地下水・湧水の保全が図られています。

さらに、これらの身近な自然は、貴重な地域資源として、人々が自然と触れ合う場として活用され、自然体験学習やふるさと文化体験などの講座・イベントが数多く開催されています。

公園の植栽や街路樹など公共の場の緑化に加え、里山環境や飛騨木曾川国定公園など緑豊かな自然環境が、身近に感じられるまちになっています。

## 関連する SDGs



## 成果指標

項目	2019年	2030年
「山、森など自然の緑の豊かさ」の満足度（アンケート調査）	84.3%	95.0%
「池、湧水などの自然のなかの水環境」の満足度（アンケート調査）	69.1%	80.0%
「野生動植物の多さ」の満足度（アンケート結果）	61.3%	75.0%
「環境活動ができる機会の多さ」の満足度（アンケート調査）	47.1%	70.0%

## 基本目標 2

# 限りある資源を有効に利用するまち ～循環型社会の実現～

## 10年後の将来イメージ

食品ロスの削減やプラスチックごみによる海洋汚染の防止に向けた意識が高まり、事業者は環境にやさしい商品や包装に取り組み、市民は、リデュース（発生抑制 必要ない物は買わないなど）、リユース（再利用 壊れた物も直してつかうなど）、リサイクル（再生利用 製品を作る際の原料にする）の3つの英語の頭文字で表した「3R」の活動に積極的に取り組んでいます。

フードドライブやシェア活動等の活用により、ごみとして排出されるものが少なくなっており、市民1人が1日当たりに排出するごみの量が少ないまちになっています。

また、日々変わる私たちの生活とともに、ごみとして出される物の成分も変化しています。出されるごみの性質に対応し、安全で安定した処理を行っています。

## 関連する SDGs



## 成果指標

項目	2019年	2030年
ごみの年間総排出量	22,120.8 t	21,361.0 t
家庭系一般廃棄物の可燃ごみ年間総排出量	11,846.6 t	11,265.0 t
市民1人1日当たりの排出量 (家庭系一般廃棄物の可燃ごみ及び不燃ごみ)	440 g	436 g
リサイクル率	17.2%	17.5%
「ごみの収集・処理の方法」の満足度（アンケート調査）	76.2%	82.0%



## 基本目標3

## 安心して快適に暮らせるまち

### ～安全・安心社会の実現～

#### 10年後の将来イメージ

生活騒音、悪臭、空き家や空き地の管理など、周辺的生活環境への影響に対する市民の意識が高まっており、市民一人ひとりがお互いに配慮をした生活環境となっています。

事業所や工場では、法令に基づく公害防止対策が徹底され、市や地域と環境保全協定を締結するなどの自主的な取り組みが広がっています。

家庭の生活排水対策や事業所・工場などの排水対策が進み、河川やため池の水質が改善されています。

また、市民と関係機関の協力・連携による地域ぐるみの活動により、不法投棄等が減少するなど、安全・安心に暮らせるまちになっています。

さらに、集中豪雨に対する防災対策や異常気象に伴う熱中症予防のための自助・共助の意識が高まるなど、気候変動の影響による被害を最小限とする行動が定着しています。

#### 関連するSDGs



#### 成果指標

項目	2019年	2030年
「空気のきれいさ、さわやかさ」の満足度（アンケート調査）	82.5%	90.0%
「河川や水路などの水のきれいさ」の満足度（アンケート調査）	63.0%	75.0%
「におい（悪臭）がしないこと」の満足度（アンケート調査）	77.9%	90.0%
「まちの静けさ」（アンケート調査）	76.8%	90.0%
「不法投棄の少なさ」の満足度（アンケート調査）	57.2%	70.0%

## 基本目標 4

# 地球環境に配慮した暮らしを実践するまち

## ～低炭素社会の実現～

### (犬山市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】)

#### 10年後の将来イメージ

LED 照明など高効率なものを積極的に利用し、省資源・省エネルギー化が進み地球温暖化の原因となる温室効果ガスの発生抑制が進んでいます。

再生可能エネルギー設備などにより家庭や事業所でのエネルギー創出がさらに進むとともに、断熱性などの省エネルギー性能を追求したエネルギー収支が実質的にプラスマイナス「ゼロ」の住宅（ZEH=ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）や工場、ビル（ZEB=ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）が建設されています。

また、「製品の買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」について地球温暖化対策に関連付けて考え「賢い選択」を促す環境省が提唱する国民運動である「COOL CHOICE」が浸透し、市民、事業者が地球環境に配慮した暮らしを実践しています。

#### 関連する SDG s



#### 成果指標

項目	2019年	2030年
市域から排出される温室効果ガス（CO <sub>2</sub> ）排出量	(2013年) 665千t-CO <sub>2</sub>	492千t-CO <sub>2</sub>
市の事務事業から排出される温室効果ガス（CO <sub>2</sub> ）排出量	(2013年) 7,376t-CO <sub>2</sub>	4,426t-CO <sub>2</sub>
事業所における「環境配慮活動の取り組み状況」で「取り組んでいる」と回答（アンケート調査）	72.3%	85.0%

## 基本目標 5

## 協働による環境活動の楽しさを未来に伝えるまち ～環境保全活動の拡大～

### 10年後の将来イメージ

環境をより豊かにして未来の子どもたちへ引き継ぐために、家庭や学校、職場など様々な場面で、環境問題について学ぶ仕組みが整っています。

また、日々の生活や事業活動によって自らが周囲の環境に及ぼす影響を理解し、環境にやさしい暮らしや環境に配慮した事業活動を実践する担い手となる市民や事業者が増えています。

子どもから大人まで誰もが気軽に楽しみながら参加できる環境学習会やイベントが数多く開催されるなど、環境学習の機会が増えることにより、環境保全活動に携わる新たな担い手が育成されています。

### 関連する SDGs



### 成果指標

項目	2019年	2030年
環境に関する事業等への参加者数	2,798名	3,300名
「環境市民活動の活発さ」の満足度（アンケート調査）	47.9%	70.0%
「地域での環境イベントの開催状況」の満足度（アンケート調査）	47.8%	70.0%
「環境について学ぶ機会の多さ」の満足度（アンケート調査）	47.1%	70.0%
「環境活動ができる機会の多さ」の満足度（アンケート調査）	47.1%	70.0%